

インターバンクの声（2017 年 11 月 28 日）

昨夜のニューヨーク市場での円相場が、9 月中旬以来約 2 ヶ月半ぶりに 111 円を割り込んだ。アジアに続いて欧州でも株安となり、ましてや米金利も低下傾向とあってはドル買いへの食指も動かない。ダメ押しとなったのは、北朝鮮による弾道ミサイルの発射準備をうかがわせる電波信号が捕捉されたとの情報が伝わったことだ。北朝鮮が最後にミサイル発射を行ったのが 9/15 で、偶然重なっただけだろうが、北朝鮮情勢の緊迫化と米金利の低下が同時に起こっての 110 円台入りだ。この水準では、弱いながらも 110 円 70 銭付近にサポートがあるが、ここを抜けてしまうと心理的な壁となる 110 円ちょうど前後が次の目標になる。さらに下抜ければ 108 円台後半ないし 9 月上旬に付けた 108 円割れすら照準に入るようだ。28 日のパウエル次期 FRB 議長の公聴会での発言や、30 日にも行われるとされる米上院での税制改革法案の採決の行方が気になり、すぐにはドル売りにも走れない。相場が大きく動き出すとすれば月末からかも知れない。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。